

令和4年度第2回亀岡市社会教育委員会議 会議録

1 日時 令和5年3月28日(火) 午前9時30分～午前11時30分

2 場所 亀岡市役所 302・303会議室

3 出席委員

工藤 和之 議長
山田 昌子 副議長
中嶋 知彦 委員
明田 晋治 委員(所要のため途中退席)
入江 治雄 委員
池田 恭浩 委員
木本 裕子 委員
黒川 孝宏 委員

4 欠席委員

中澤 博幸 委員
川口 研一 委員
野々村 誠一 委員
猪子 純子 委員

5 出席事務局職員

神先 教育長
片山 教育部長兼文化資料館長
樋口 社会教育課長
山崎 社会教育課人権教育担当課長
岩崎 歴史文化財課長
八木 歴史文化財副課長
大西 歴史文化財課主事
谷 図書館長
小川 図書館副館長
森 社会教育課放課後児童係長
大槻 社会教育課主査

6 傍聴者

1名

7 議事の概要

- ① 開 会
- ② 挨拶(教育長)

③ 連絡・報告事項

- 〔1〕令和4年度亀岡市社会教育推進事業について
- 〔2〕令和4年度亀岡市人権教育推進事業について
- 〔3〕亀岡市社会教育委員の令和4年度活動報告及び令和5年度活動計画について

④ 協議事項

- 〔1〕協議会・委員会の役員選出について
- 〔2〕その他

⑤ 閉会(教育部長挨拶)

【議事に対する意見】

③ 連絡・報告事項

〔1〕令和4年度亀岡市社会教育事業概要

・亀岡市立図書館中央館リニューアルコンサルティング業務

○委員

大型の書店がどんどん減少している現状がある。デジタル面での充実はもちろん必要ではあるが、図書館のような本がたくさん並んでいる中をたまたま通りがかって、興味が沸いて手に取ってみるといふ本との出会いも大事ではないかと感じる。また、図書館の利用者数の増加とは相反することにはなるが、図書館ならではの静かさや落ち着いた雰囲気も大事にしていきたい。

○委員

図書館のリニューアルに際して、外観を「城下町」の雰囲気にあうようにしてほしい。

○委員

3階野外テラスについて、子供たちも利用すると思われるので、塀の高さデザイン等で落下防止の措置の徹底化をお願いしたい。

・亀岡市はたちの会と成人への啓発について

○委員

式典のときに中学校ごとに集まるという形式をとっているが、私立の中学校に行った生徒たちが市外中学校出身という形で1か所に集められるため、小学校の同級生と一緒にいたいと思っている生徒たちにとっては残念に感じているという話を聞いた。改善をお願いしたい。

・放課後児童健全育成事業(亀岡市放課後児童会)

○委員

本校では、今年度、まなびサポート事業として、教員志望や保育士を将来目指している生徒を対象に、亀小の授業・亀中の学習会・放課後児童会で児童生徒の活動をサポートしてみないかと呼びかけた。

結果、7月～8月の第1期、10月～1月の第2期合わせて48日間延べ168人が参加をした。特にその中で、今話題に出ている放課後児童会には、32回88名の生徒が参加してくれた。

対象を第1期は2・3年生、第2期を全学年とした。参加した3年生の多くが、教員育

成系や保育士・幼稚園教諭を目指して進学した。

勉強だけでなく様々な子どもたちの活動を地元の高校生がサポートすることはとても有意義であり、来年度も、亀小・亀中・社会教育課と日程を調整し、5月頃の早い段階から事業を始めたいと考えている。

・亀岡市デジタル文化資料館について

○委員

デジタル文化資料館の映像は、亀岡の歴史文化財について身近に感じるとともに、実際に実物見学に行こうという意欲につながる非常に意義のあるものだと感じた。このようなソフト面の充実は本当に素晴らしい取り組みである。いま説明にあった通り、文化財保護法が改正され、関係者や文化財所有者などが地域総ぐるみで保護するスタイルに変更され展開されようとしている。

また、来月の4月1日から新しく施行される博物館法は、70年ぶりの本格的な改正である。亀岡市の「文化財保存活用地域計画」とともに、文化資料館も地域を巻き込んで、地域文化財保護の重要な博物館施設としての役割使命を果たす責務がある。「地域計画」やデジタルソフト面の整備が進められると同時に、円滑な実施展開のためには、関連情報を得る手段、実物の文化財等を見学する場所、フィールドワークや体験会による経験実感できる機会、さらに、貴重な文化財の保管保全の収蔵施設の充実も必要である。長く文化資料館に携わってきた者として、現在の文化資料館でそれらを展開するには施設的に限界であると考えている。「亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会」による「令和4年度 報告書」も踏まえて、しっかりと整備する必要がある。いよいよハード面での整備検討・実現への「いざ鎌倉」の時だと言える。主管課である歴史文化財課・文化資料館の現場サイドでも一致団結して新資料館実現に頑張ってもらいたい。応援のエールを送りたい。そして、実現の暁には利用される市民が、亀岡の豊かな地域文化財のさらなる魅力を感じていただけたらと思う。

○委員

文化財の保護については、関係者や文化財を所有している人の心意気だけを頼りにするのではなく、5年先、10年先も守っていく具体的な方法を考えていく必要がある。

[2]令和4年度亀岡市人権教育推進事業について

○委員

コロナが長く続いてきた中で、非常に難しい状況が続いたと思うが各事業しっかり取り組んでいる。春からはコロナウイルスに関する位置づけが変わってくるため、引き続き積極的に人権教育推進事業の展開をいただけたらと思う。

○委員

最近話題となっている水平社記念博物館に、社会教育委員での研修会として見学に行くことを提案したい。

○委員

実際に京丹波町や南丹市は積極的に社会教育委員で集まって研修会を行っておられ

る。ぜひそういう機会を企画して実施できたらいいのではないか。

④協議事項

[1]協議会・委員会の役員選出について

南丹地区社会教育委員連絡協議会の会長は工藤議長、南丹地区社会教育委員連絡協議会理事は山田副議長に決定。

[2]その他

・各社会教育委員の活動報告

○委員

今年度に霧の芸術祭で開催した展示について紹介させていただきたい。霧の芸術祭は年に1回大きなイベントを開催するような芸術祭ではなく1年中、亀岡市のどこかで何かが行われている芸術祭である。芸術祭には有名な彫刻家や画家を呼ぶなどではなく、市民に身近な芸術家、たとえば亀岡市で有機野菜を育てている方や洋服をリサイクルしている方など、いろいろな場面で活動されている姿を芸術、その方々を芸術家と捉えた展示をしている。芸術祭のなかでも1年に1回芸術家を招いて11月・12月に大きな展示をしているが、それが亀岡市役所地下1階の開かれたアトリエで行っており、月に1回程度小規模ではあるが、市民の皆さんに作品を何点か展示していただいている。

資料を持ってきているので、それをもとに説明させていただく。

1枚目のダンボールとアート展というのは、現在は大学生の方の、高校在学中の時に作ったダンボールで作った大きな立体作品が2つあり、その展示を行った。開かれたアトリエというのはSDGsの活動の拠点でもあるので、ただ展示をするのではなく、その展示×SDGsを意識し、SDGsの17の目標のいずれかには結びつくように活動している。今回は、資源循環推進課や関係企業にご協力いただき、ダンボールを含め亀岡市から出るいろいろなゴミのリサイクルに関する市民からの問い合わせなどを集計して、Q&A方式で、それを見た人が捨てたダンボールや生ゴミが処理されるまでどんなルートをとるのかというなどを紹介し、理解を深められるような展示を行った。また、ワークショップも行い、嵯峨美術大学の生徒と子どもたちがダンボールの工作をして、展示を行った。

2枚目はかめのご学級ふれあい学級かめの会の皆さんの活動紹介と作品展「アートでつながるあなたとわたし展」である。動画を作っている所以動画を視聴していただきたい。(動画の視聴)この展示では知覚障がいや聴覚障がいのある方々の作品の展示ではあるが、ただ作品を見てもらうだけではなく、こうやって映像を公開することで、リアルな活動風景や温かみを感じてもらえたらと思っている。映像を見てもらうことで、作品ができあがるまでの展示作者と周りの方々(支援員やボランティア)との会話などを感じてもらい、個人での作品作りではなく周りの人と一緒に作品作りをしているということを知っていただけたらと考えている。

3枚目は「みんなで紡ぐドレス展」である。この中では「やさい to アート」というワークショ

ップを開催した。このワークショップでは根っこや泥がついたままの朝どれの野菜を農家さんから大量に持ってきていただいた。農家さんには、「普段、子供たちはスーパーでしか野菜を見ないので、大根がどのように土から生えているのかなどを知らない子たちが多くいます。なので、自然に近い状態のままでお願いをします」と伝えて持ってきていただいた。

実際、キャベツの中から芋虫ができて「うわぁ」という声が出ることもあり、そういった驚きや喜びを色で表現してみようということで10メートルくらいの布を広げて、そこで好きに色で表現してみようということで色づけをしてもらった。そのときに絵を書くという気持ちになるとなかなか筆が進まないが、手でも足でも何を使ってもいいよっていうことを言ったら、全身に絵の具を塗ってゴロゴロ転がるような子もいた。ほかにもストローを使ったり、足に絵の具をつけて布の上をペタペタ踏んだり、子供たちの独自の方法で、絵の具を使った絵を描いていた。そうやって描いた布を私が3着のドレスに仕立てた後、この開かれたアトリエで、ドレスに刺繍とかいろいろな装飾を、老人クラブや切り絵サークルの皆さんと紡いでいった。その後子どもたちにプラ板などでアクセサリを作ってもらい皆でドレスを完成させた。そして、最終的にはそのドレスの展示を行った。この展示は小さな子どもからお年寄りまで、みんなが同じゴールに向かってバトンを紡いでいくということを目的として実施した。

4枚目の10代のSDGsの出展者は、現在高校2年生である。自分がSDGsとして掲げている目標に対して、何ができるかという視点を持って、プレゼンテーションなどを通して発信していただいた。その方のパワーポイントの展示をしてほしいという声があったが、パワーポイントだと文字が多いので、霧の芸術祭として、もっと目を引き、読みやすい展示にして、10代のSDGs展を行った。

5枚目のNANTAN展については、南丹高校の総合的な探求の時間という授業の中で作った作品の展示を行った。高校生で授業の一環になると、一過性になってしまいゴールが設定しにくいという難点があるが、何度か南丹高校に足を運んで、一緒に目標を考えた。高校生なので、難しい機械を使ったり、お金をかけることはできないが、それぞれ手作りでエコバッグを作ったり、絵本を作ったり、SDGsに関する映像を作ったりする学生達もおり、全部で14個の展示ができた。

そして6枚目は、亀岡高校の生徒と「□と繋がる芸術祭」を開催した。亀岡高校の美術工芸専攻の生徒の中から、やりたいと手を挙げてくれた14人の生徒が展示を行った。普段は私が展示の企画や分野を決めるが、今回は亀岡高校の生徒たちがチラシのデザインやレイアウトなど、ほぼ生徒たちだけで実現する企画となった。普段の事業だと与えられた課題があって、それにしっかり取り組むのは、得意な生徒が多いが、今回は自分が作りたいものを自分で見つけて、自分の中にあるストーリーをしっかり掘り下げて、それを言葉にして、一緒に説得力のあるものにしていく。作品にするということに、いくつもの壁が生徒たちの前に立ちはだかったが、それを乗り越え最終的にはすばらしい作品の展示ができた。

これで今年度の霧の芸術祭で取り組んだことは以上になる。

霧の芸術祭は文化国際課の管轄にはあるが、文化国際課の職員や霧の芸術祭のメンバ

一の中だけで運営を行うのではなく、市民のみなさんの声を反映した展示で、なおかつ亀岡市が行っている事業と絡むようにいろんな部署に協力を依頼して、開催をした。来年度は市役所内の部署だけではなく、外部の団体とも連携することができればと考えている。芸術祭の強みは、作品を通じて人に知ってもらえること、伝えるという手段を持っていることだと思う。芸術祭でやってみたいなどということがあれば、ぜひご提案いただきたい。

○委員

今年の1月にボーイスカウトの活動が60周年を迎えるにあたり、BTS(Boy scout Training Square)の紹介を簡単にしたい。

千代川町の湯井という集落の田畑が荒れ放題になっていた。地元の方から誰か使ってくれないかという要望があり、我々がいま整理をしている最中である。最近、アウトドアが非常に流行しているので、危険な面もアウトドアにはあるが青少年のアウトドア拠点として利用していきたい。

また、その近くに行者山という山がある。その山を中心とした袂に技能訓練場や工作物展示場や野鳥の森を設けている。1月には野鳥の森で巣箱づくりをした。最近はちょっとずつ暖かくなってきたこともあり、鳥が巣箱にやってくるようになった。5月か6月ごろには卵を産んで巣立つという体験を多くの皆さんでしていただきたいと思い巣箱づくりを行った。ぜひとも、行者山を中心に散策をするようなアウトドアの活動に、いろんな方に参加していただきたい。それによって、様々な形のロープ結びや刃物の使い方などを学ぶとともに、物を大切にするという子どもを育てるうえで重要なことを学んでもらえたらと思っている。

我々は60周年を一つの区切りとして考えている。ぜひとも関心のある方はご参加いただきたい。

○委員

公益財団法人生涯学習かめおか財団で亀岡生涯学習市民大学を行っている。令和4年度は新型コロナウイルスの脅威がありながら、なんとか全8講座開催することができた。

お手元に「まなびのわ」No.52を配布している。各講座のテーマ・講師・内容・受講生の感想・参加人数等は紙面の通りである。この前は音楽のコンサートを特別音楽講座として行った。こういった生涯学習に関わってのテーマで成人や高齢者に参加していただいている。

生涯にわたって、学習をしてもらう場を提供する取り組みは、令和5年度で35周年になる。

各運営委員等が、自発的に生涯学習の実践、そして講師を選んで、皆さんに聞いていただく機会を設けている。本年6月には令和5年度の全講座の案内ができると思うので、また機会があればご参加いただきたい。